

自然休養林情報

ヤクスギランドは全国区

世界遺産に登録され4年半が過ぎましたが、屋久島への観光客は年々増加傾向にあります。ところで、屋久島への観光客はどこから来ているのでしょうか。保全センターでは、観光客の大部分が利用するヤクスギランドにおいて、協力金を徴収する際「お住まいは」と不特定の方に尋ねていますが、今回その入林者状況をお知らせします。

ランドへの入林者は、やはり地元鹿児島県が一番多いものの、次に続くのは東京、神奈川、大阪、宮城、北日本では北海道、宮城、九州では福岡、宮崎の順となっています。

平成9年11月には、1ヶ月間に北海道から沖縄までの全道府県やイギリス他3ヶ国からの入場者があり、ヤクスギランドは全国区のような様子です。

世界遺産屋久島のヤクスギランドへ、ぜひ一度お越し下さい。巨樹・古木がお待ちしています。



生態系モニタリング報告書完成

世界自然遺産等の保護対策に利用

平成九年度世界自然遺産保全緊急対策事業により、平成八年度のモニタリング調査に引き続き、平成九年度(第二次)の調査報告書が完成しました。これらの調査結果は、今後の世界自然遺産保全のための対策に役立てていきます。

平成五年に屋久島が世界自然遺産に登録されてから、入り込み者数が増加し、環境の汚染など生態系に対する影響が心配されています。平成九年度の「生態系モニタリング調査」は、遺産地域の保全のための森林管理を行うために必要な①入り込み者の実態調査と自然環境悪化防止のための方策②入り込み者による高層植生・水質への影響

調査と具体的な対策についてとめるとりまともです。これらの調査結果は、今後の世界自然遺産等の保護対策



を進める上で大変参考になるものと考えています。報告書は、環境庁をはじめ関係機関に配布しています。詳しくは、当センターまでお問い合わせ下さい。

シヤクナゲの植え替え始まる

【シヤクナゲ保護増殖事業】

保全センターと屋久島環境文化財団の共同事業、ヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業は順調に進行しており、育苗ポットへの植え替えを始めました。

苗の中には、苗長が二〜三cm程度になり、育苗箱の中が密集状態となって他の小さな苗を被圧していました。

今回の植え替え(二、〇〇〇本程度)で、密集状態が解消され、苗の生長が良くなる

縄文杉への登山者一、五三二名

GW期間中の監視指導実施

保全センターでは、今年も登山者のマナー啓発及び展望デッキの利用誘導等を図る目的で、縄文スギ周辺の監視指導を四日間実施しました。

利用啓発活動の現れか登山者のマナーは向上していましたが、デッキ下に入る姿勢等が若干見受けられ、今後も設置目的を正確に伝えるための普

屋久島の植物



オムラサキシキブ (くまつづら科)

南日本の海岸近くにあり、暖地に生える落葉の低木で、高さ三〜四m。屋久島では、低地の林縁で多く見られる。紫式部の名をとったムラサキシキブの一変種で、葉(対生)が大きくて厚く光沢があり、夏(六〜七月)に葉の付け根から花茎を出して、小さい淡紫色の花を多数つける。

大川観測点 七、〇〇〇mm



平成九年・年間雨量データ

保全センターでは、屋久島の主要地点七箇所雨量計を設置し、独自に雨量観測を続けてきました。今回、平成九

年の雨量を集計しましたのでお知らせします。昨年は台風被害等によるデータの欠測が多く、正確な年間雨量は観測出来ませんでした。したが、それでも大川観測点では年間七、〇〇〇mm以上の雨量を観測しました。各観測点の雨量については裏面に掲載しています。

今年も早咲き

シヤクナゲ開花情報

保全センターでは、五月二六日に宮之浦岳登山道の森林パトロールを実施しました。

ヤクシマシヤクナゲの花が、今を盛りと可憐に咲いていました。花之江河や投石平付近では七分咲き程度、翁岳から永田岳方面は見頃で、例年より早咲きの様です。

開花量は、大開花の平成七年に比べると少なく、昨年並みでした。



平成九年

雨量観測データ一覧表

雨量計設置個所	標高	1月	2月	3月	4月	5月	6月
①屋久島森林環境保全センター	20m	168.0	205.0	251.5	209.0	239.0	587.5
③宮之浦林道33支線	500m	275.0	176.5	343.5	333.0	385.0	973.0
②白谷雲水峡入口	560m	223.5	379.0	327.0	315.5	319.5	1100.5
④小杉谷事業所跡	680m	276.5	242.5	394.0	376.5	363.0	1249.5
⑤大川林道12支線	1020m	197.5	151.0	417.5	364.0	507.0	770.5
⑥淀川登山口	1380m	237.5	223.0	21.0	0.0	78.5	1360.0
⑦黒味岳頂上付近	1800m	123.0	128.5	359.0	350.0	498.5	640.0

雨量計設置個所	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
①屋久島森林環境保全センター	128.0	285.5	1,009.5	67.5	429.5	474.5	4054.5
③宮之浦林道33支線	422.5	567.5	1,764.5	160.5	0.0	509.0	5910.0
②白谷雲水峡入口	260.0	746.0	119.5	0.0	0.0	503.5	4294.0
④小杉谷事業所跡	299.5	0.0	1,669.5	240.0	1,018.5	453.5	6583.0
⑤大川林道12支線	536.5	591.0	2,609.0	31.5	626.5	371.5	7173.5
⑥淀川登山口	683.5	600.0	2,118.5	83.5	1,096.5	364.5	6866.5
⑦黒味岳頂上付近	238.0	0.0	1,229.5	81.5	531.5	210.0	4389.5

各観測点の欠測日	
①屋久島森林環境保全センター	1月15日, 5月13日, 9月12日
③宮之浦林道33支線	10月29日~12月6日,
②白谷雲水峡入口	9月11日~12月15日,
④小杉谷事業所跡	1月14日~15日, 5月20日~22日, 7月16日~9月2日
⑤大川林道12支線	1月14日~15日, 5月21日~22日, 9月9日~12日
⑥淀川登山口	3月7日~5月22日, 12月25日~31日
⑦黒味岳頂上付近	7月17日~9月2日, 10月10日~13日

昨年、9月に台風19号が屋久島に接近し、洋上アルプス31号で報告しましたように、異常な降雨により屋久島の北部から西部地域にかけて、県道及び国有林にも多大な被害をもたらしました。この時、ヤクスギランドの蛇紋杉は倒れ、白谷雲水峡入口の雨量計は土砂崩れにより一時観測不能になりました。

台風が接近した9月の各観測点の雨量は、上記のとおり各地点とも1,000mmを超える雨量を観測し（白谷観測点は9月10日までの観測）、特に、大川林道観測点の雨量は突出しており、2,609mmと保全センターが平成7年より雨量観測を始めて、最大の観測値となりました。ちなみに、それまでの月最大雨量は平成8年9月の台風21号の時に白谷雲水峡入口観測点で記録した2,160.5mmでした。

観測7地点の年間雨量観測日数をカウント（雨量計は0.5mmから観測）してみたところ、年間248日となっており、このことから考えますと、昨年は3日の内2日はどこかの箇所で雨量計が雨量を観測していたことになります。

また、月別の観測日数では1月と7月が最も多く月に27日、反対に最も少なかったのは10月で月に12日でした。

ところが、平成10年の1月から3月までの観測では、各月とも雨量を観測しない日が1日しかありませんでした。

つまり、ほぼ毎日どこかの雨量計で雨量を観測していたことになり、「屋久島では月に35日雨が降る」というのもうなずけます。

雨量のデータは、これからも貴重な保全センターの資料として観測を続けていき、何か大きな変化等ありましたら、この洋上アルプスでお知らせしてまいります。

『洋上アルプスNo.39裏面』屋久島森林環境保全センター